

フォントが文字の感性印象に及ぼす影響

池田 華奈・平田かよ奈（指導教員：西村聡生）

（安田女子大学心理学部）

研究の目的

印刷物などによく用いられるゴシック体や明朝体などの標準的なフォントは、きれいで読みやすい印象を与える（田邊・濱地，2011）。また、線の太さなどの物理的な特性は、躍動感などから読みやすさといった主観的な特性に影響するとされている（小田・宮下，2013）。このようにフォントを目にした際には、太さや角ばり具合といったフォントそのものが持つ特徴の印象（物理的印象）だけでなく、あたたかみや親しみやすさといった心理的な印象（主観的印象）も生じる。本研究では、比較的特徴のはっきりした丸文字フォントと達筆文字フォントの強度を変えて、それぞれの物理的印象と主観的印象について検討する。

方法

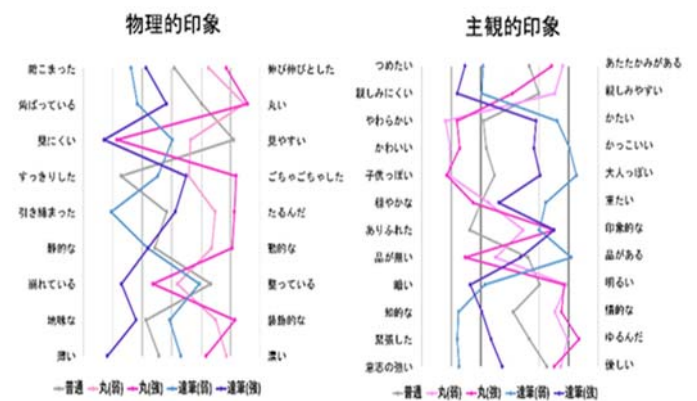
女子大学生 75 名が、「いつもお世話になっております。これからもよろしく願いいたします。」という挨拶文のフォントについて、その物理的印象 9 項目および主観的印象 12 項目について SD 法（7 段階）で回答した。フォントは 5 種類あり、普通のフォントとして「メイリオ」、比較的丸さが弱い丸文字（丸文字弱）フォントとして「にくまるフォント」、丸文字強フォントとして「ポプラむ☆キュート」、達筆弱フォントとして「HGP 行書体」、達筆強フォントとして「衡山毛筆フォント草書」を使用した。約半数の参加者はこの順番で、残りは普通、達筆弱、達筆強、丸文字弱、丸文字強の順番で、フォントの印象を回答した。

結果

5 種類のフォントごとの物理的印象と主観的印象の平均評定値を図 1 に示した。普通のフォントは、物理的印象としては見やすくすっきりと整っており、主観的にはありふれた印象であった。丸文字弱は、物理的印象としては丸く濃く、主観的にはあたたかく親しみやすく子供っぽい印象であった。丸文字強は、物理的印象としては丸く見にくく、主観的には明るく子供っぽく印象的であった。達筆弱は、物理的印象としては引き締まっ

ており、主観的には大人っぽく知的でかっこいい印象であった。達筆強は、物理的印象は薄く見にくく、主観的にはつめたく親しみにくく印象的であった。

図 1. フォントごとの物理的印象（左）と主観的印象（右）



考察

物理的印象においては、強度の異なる丸文字フォントには類似した傾向がみられた。達筆フォント同士ではあまり共通の傾向はみられなかった一方で、強度の弱い達筆フォントは、均整面や濃度等に関する印象では標準的なフォントと類似の傾向がみられた。またいずれのフォントでも、その特徴が極端になると見にくくなっていた。

主観的印象においては、丸文字フォントと達筆フォントの間で反対の傾向が多くみられた。そのような反対の傾向がみられた印象は、どちらのフォント内でも強度による違いがあまりみられなかつた。かたい、暗いといった物理的帰属性と、親しみやすい、かわいい、子供っぽい、情的な、ゆるんだ、優しいといった親近性とに大別された。曲線的な字形から柔和な親和感を感じる（松野，2012）ように、物理的印象が主観的印象に影響することはしばしば報告されている（小田・宮下，2013）。あたたかみや明るさといった物理的帰属性が、子供っぽくかわいい等の印象形成に影響を及ぼしているのかもしれない。